

サバイバル訓練に参加して



昨年夏、7/23~26の4日間「震災サバイバルキャンプイン99」に参加した。有意義で感動的な体験だった。

大震災に遭遇した人たちが立川の昭和公園に避難し、仮設市街地をつくりそこを離れずに街を復興していくというのがこの「サバイバルキャンプ」の目的だ。訓練の設定は1日目は被災直後の応急住まいづくり、2日目は2カ月後の復興への初期期、3日目は6カ月後の復興街づくり期、4日目は仮設の撤去期だ。

入園料と一定の参加費を払い、公園の広場に集まってきた人たち全員が「被災者」であること以外特別な情報は無い。参加者はみんな初対面だ。大阪から来たという男性「被災者」、赤ちゃんを連れて若い夫婦、家族と離れて「被災」したサラリーマン、学生、大学の先生、自治体の職員……など、情報が不十分だと怒る人、「いやいや私たちは被災直後なんです。これから始まるんです」「これが本当に大震災の直後だったらもっと何にもないですよ」と論ずる。正確な情報を集めるにはどうしたら良いか、どうやったら快適に過ごせるか「みんなで話し合おう」とそれなりにイニシアチブをとる人と、反応・対応もさまざまだ。(実際に被災した状況下ならばこれらのやりとりはもっと複雑で、深刻であろう) そんなやりとりをしながらもかく住まいを確保しようとテントを張って4つの村が出来上がり、その一角にはコンビニや銀行も開店した。

新しい入居者(「被災者」)も次々やってくる。村民のための水の確保、食料の調達、食事の支度と仕事は一杯ある。若いお母さんの希望で物干し場も出来た。初日の夕食後には明日からの3日間どうやって過ごすかと村民会議だ。それぞれの自主性を尊重して役割を決め、大きな桜の木があるから「桜村」と命名し正式(?)に村の誕生だ。

ちなみに、「今、桜村が面白い」と評判になり、隣村から何人もの見学者があったほどだ。そこには人への優しさや思いやり、想像力や賢さがあり、人が気持ち良く生きていくための知恵や工夫が溢れていたからだろう。

4日間、広場の中では、街の復興のためのシンポジウムや、被災・復興のパネル展示・ビデオ上映、フォー

ラムやワークショップなどが開かれた。これは、企画のなかでの参加者に対する街づくりの専門家集団やボランティアからのアプローチでもある。

冒頭このイベントの目的を述べたが、これは「私は被災者」であることを想定してのコミュニティづくりのための4日間という期限のある擬似体験だ。ただアウトドアライフとしてのキャンプを楽しむというイベントではない。実際の場面ではこのテント暮らしが何時まで続くのか、この先どうやって暮らしていったら良いのだろう……、次々飛び交う情報に一喜一憂し、疲れ、混乱するかもしれない、この擬似体験のように何でもうまくいくなどと考えているわけではない。参加者から「危機感がない」という意見が出た。私もそう思う。しかしこれはそれぞれの想像力を高めてもらうしかないことだ。

各町会での防災訓練、避難訓練もそうだが、こうした体験・訓練の積み重ねは、あってほしくない「その時」のための知恵を養うことになると思う。

朝は鳥とセミの合唱で目覚め、夜は虫の音の子守歌で就寝と言うと聞こえは良いが、日中は暑さとの闘いであった。しかしそれにも増して素敵な出会いと学びがあり、有意義な4日間だった。

最後に、個人的なことだが5年前の1月17日阪神淡路大震災の時、私は、大工という立場で何かの役に立つのではないかと思いつつも、自分の喘息の状態を考えて駆けつけることを断念したことなどを思い起こし、体調を完全に整え、治療薬や緊急時のための薬や「救急救命カード」を持参しつつも、救急車出動要請もせずこの4日間のイベントに参加出来たことは私自身感慨深いものでもあった。

(救援救護部会 青山日出男さん談)



池袋本町 防災まちづくり no. 16

池袋本町広報印刷物 H20-11-152
平成12年1月17日発行

発行:池袋本町防災まちづくりの会
豊島区まちづくり推進課
問い合わせ先:
(財)豊島区街づくり公社
TEL 03-3981-1083
編集協力:(株)エコライン

J R 職員住宅跡地の利用 検討委員会のメンバー募集

今年度中に買収予定

防災まちづくりの会では、池袋本町一丁目のJ R職員住宅跡地を地区の防災上の拠点となるように計画し、その実現を豊島区に求めてきました。それを受けて豊島区では今年度から用地の買収を行います。現在はJ Rのアパートが建っていますが、買収と共に取り壊し、更地になって引き渡されます。

利用方法の検討

跡地の利用方法については、防災まちづくりの会でもさまざまな意見が出されています。これまでは、池二小側の敷地については学校との結びつきを考えた公園、南側の敷地については集会施設をもった地区防災センターを整備したいという意見が出されています。一方、この敷地に接して池袋本町公園があり、これ以上に公園は必要ないという意見も出されています。

検討会の開催

そこで防災まちづくりの会では、広く皆さんの意見が反映された施設となるように、跡地利用検討会を開催することにしました。会には防災まちづくりの会、地元町会の他に、より多くの地域の方々にご参加いただきたいと思います。地域で親しまれる施設となるように、皆さんのご知恵をお貸しください。



検討会メンバーの募集

- 会の検討内容
J R職員住宅跡地の利用方法の検討
- スケジュール
利用方法について区に提案するまでの期間
平成12年3月から検討を開始し、
1~2ヶ月に1回、検討会を開催します
- 参加資格 池袋本町にお住まいの方
- 募集人数 15名(申込者多数の場合は抽選)
- 申込方法 電話又はFAXで街づくり公社までお申し込みください。そのうえ、住所、氏名、年齢、ご職業をお知らせください。
- 締め切り 平成12年2月17日
- 申込先 電話 3981-1683
FAX 5992-6099

つれづれに一言

「池袋本町にオウムの道場！」最初に連絡を受けたのは一昨年の八月九日のことです。松本サリン事件、地下鉄サリン事件、坂本弁護士一家拉致・殺害事件など、世界中を震撼とさせた忌まわしい事件の様子が脳裏を巡りました。

それから一年四カ月月の間、「オウム対策連絡協議会」の結成・協議、近隣町会・豊島区・東京都・国への要請、監視行動等と連日オウムに明けてオウムに暮れました。

昨九月三十日には、オウムが足立から豊島区内に本部を移すという連絡が入りました。その日から約二カ月、住民による徹夜の監視行動。そして撤去……。監視を続けながらこれが何時まで続くだろうと思っていました。

本当に地域のみなさんにはお世話になりました。いろいろな人たちの応援もいただきました。遠くに住む人も、車椅子の人も参加してくれました。寄付や募金、支援の物品もいただきました。一つの目的に向かってみんなが力を合わせる事が出来た。これは今回の事件で得られた大きな収穫です。本当にありがとうございます。(名取芳治さん談)